



今月号の内容

日蓮大聖人ご入滅(1面)
沙弥校の報告・沙弥校参加者
感想文・日蓮大聖人の歩まれた道・聖徒の声(2・3面)
「日蓮宗加行所正伝師」に
工藤堯幸上人が就任(4面)

平成25年(2013年)10月1日(火)
10月号

発行所
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町3-25-11
九段中央ビル702
日蓮宗霊断師会九段事務所
電話 03-6272-9340
FAX 03-6272-9341

日蓮宗霊断師会

会長 新聞 智雄
編集人 松本 恵昌
購読料 1部 105円
毎月1回1日発行
日蓮宗霊断師会ホームページ
http://www.yorokobi-reidanshikai.jp
よろこび投稿メール
yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp

身延山での生活



日蓮宗霊断師会 総合研究所
九識霊断法研究部長
愛知県名古屋妙泉寺聖徒団団長

石黒 泰 良

「吹く風も、ゆるぐ木草も流るる水の音までも、この山には妙法の五字を唱へずと云ふ事なし」
『波木井殿御書』

日蓮大聖人がお住まいだった当時の身延山は山深く、険しい山道の上、訪れる者もないと言われたお山でした。しかし弟子・信徒は大聖人を慕って来山し、多い時には百人以上が生活していたと伝えられています。
大難は四ヶ度、小難は数知れずの弘教生活に比べ、身延山での生活は法華経読誦・弟子信徒の教化・

御両親へのご回向と、落ち着いた毎日でした。

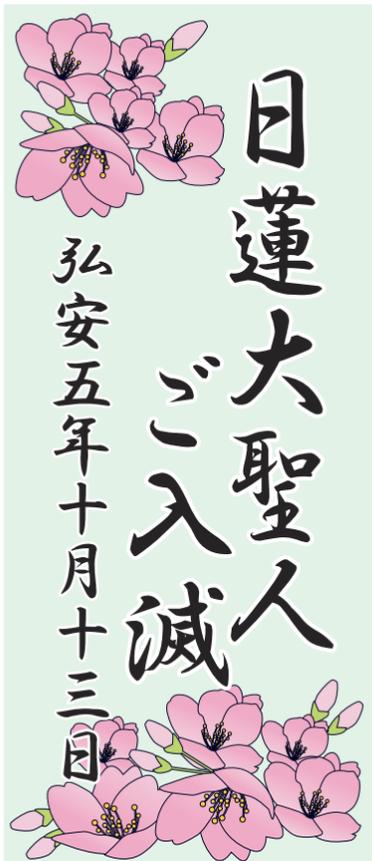
大聖人は身延山での生活を通して、お釈迦様が晩年の八年間法華経をお説きになられたインドの霊鷲山よりも、日本仏教の総本山とも言える比叡山よりも、このお山こそが霊山であると強く実感されました。大聖人には、風の音も揺れる草木の音も、川の流れの音も、すべてお題目に聴こえられたのです。

身延山との別れ

厳しい環境での生活は、いつしか大聖人の身体をむしばんでいきました。身延山を離れたくないと思われた大聖人でしたが、弟子・信徒らの強い勧めもあり、久方ぶりに故郷安房小湊を訪ね、かつ常陸の温泉(現在の茨城県北東部)での療養を決意されました。こよなく愛した身延山をあとにされた大聖人は、波木井公より寄進された馬にまたがり、



池上ご到着
九月八日に身延山を出立した大聖人一行は、九月十八日、武蔵の千束郷の池上宗仲の館に着かれまし



甲州路を進まれるのでした。

その時、もはや大聖人は故郷の安房へも、湯治にも行ける身ではなく、筆を持つ元氣さえありませんでした。一進一退する病状の中、九月二十五日には大衆のために最後の講義として『立正安国論』を講ぜられ、十月七日には「たとひいづくにて死に候とも、九箇年の間心安く法華経を誦し奉り候山なれば、墓をば身延山に立てさせ給へ。未来際までも心は身延山に住むべく候(波木井殿御書)」とご遺言されました。



翌八日、六老僧を定められ、滅後弘通についての御遺誠と形見分けをされました。

大聖人ご入滅

十三日辰の刻(午前八時)、いよいよ臨終の時を悟られた大聖人は、御自筆の大曼荼羅御本尊を枕元に掲げ、弟子たちと共に法華経とお題目を唱えながら、六十一年の波乱に満ちたご生涯を閉じられました。この時、大地がにわかに震え、満山の桜が一時に花開いたと伝えられています。

十四日子の刻(〇時)、葬送茶毘の儀を行ない、二十一日遺骨を奉じて池上を出立、同二十五日身延山に入り、百カ日忌に当たる弘安六年一月二十三日、ご遺言通り遺骨を納めて五輪の墓石が建てられました。

池上宗仲・宗長兄弟

日蓮大聖人ご入滅の聖地、東京池上の本門寺・開基檀越である池

上宗仲・宗長兄弟の父親は幕府の工匠でした。大聖人に帰依していた兄弟は、念仏信者であった父との確執から兄が勘当を受け、それにより弟の法華経信仰も揺らぐ一時期がありました。その際、大聖人は何通ものお手紙によって兄弟を励まされました。兄弟とその夫人は異体同心、力を合わせて父親を諫め、ついに法華経の信仰に導き入れたのです。

信仰の姿

父親を法華経信仰に導き入れるという、最も困難であろう家族の教化に成功した鍵は何だったのでしょうか。

池上兄弟は、大聖人のお言葉に力を得て、父を正論で強く諫めました。しかし、その法論のみが父親を改心させる要因ではなかったのです。兄弟夫婦で「本尊に向い、一心に「南無妙法蓮華経」とお唱えする真剣な信仰態度が、父に信仰を得心させることとなったのです。

又、兄弟が法華経信仰によって人格を成長させ、家内和合している姿は父を喜ばせ、信用させることにもなつたでしょう。法華経信仰は、家族みんなが幸せになれる最善の方法です。お会式には宗祖日蓮大聖人へ思いを馳せると共に、池上兄弟の信仰の姿に一步でも近づけるよう精進いたします。

津軽宇田山 閻法寺
10月27日 午前9時より
「日蓮大聖人御会式」
毎月 第2土曜日
午後3時より「唱題修行」
〒030-1403
青森県東津軽郡外ヶ浜町平館元宇田52-2
TEL 0174-25-2712
住職 工藤 堯幸
副住職 工藤 堯慎・修徒 工藤 堯顯

妙正寺聖徒団 廣川芳民
旭川FMリベールFMラジオ 83.7MHz
「マダムケロのちよと長話」
10月7日、22日午前11時より
インターネットでも聞くことができます
サイマルラジオから
旭川FMリベールをクリック
10月6日(日)午前11時
納骨並びに納位牌堂諸精霊総供養。
鬼子母神大祭。小松原法難会。
毎月1日午前10時 盛蓮祈願会
妙正寺聖徒団 団長 関 龍雄
〒071-1423
北海道上川郡東川町東町2丁目6-3
TEL 0166(82)2714 FAX 0166(82)2914

いかされるよろこび
美濃乃國
常唱寺 聖徒団
〒501-3734
岐阜県美濃市千畝町2738-2
TEL/FAX 0575(33)1430

妙顕寺
天目聖人御報恩
平成屋根等大改修
ご寄付募集中!
●郵便振替
口座番号 00180-6-267327
口座名義 妙顕寺建設委員会
〒327-0843 栃木県佐野市堀米町264
TEL 0283-22-1524
FAX 0283-22-4194
http://www.sano-myoukenji.jp

日蓮宗霊断師会会長
感通寺聖徒団団長
新聞 智雄
〒162-0044
東京都新宿区喜久井町39
TEL 03-3209-8782
FAX 03-3208-7966

「沙弥校」参加者の感想文



宮崎県 龍雲寺 吉田 龍史 (中学二年生)

僕はこの沙弥校で学んだ事が二つあります。それは沙弥校で知り合った友達と仲良くするという事と、どんな時でも少しのがまんをしなければならぬということ。

何事も一人でやっていたらつまらないです。お世話になったりお手本になったり……。下級生は僕より小さいのだから、逆に見習うところもありました。読経の時、正座がいたくなくてずーっとがまんしていると、下級生の子が「あと十五分はいたよ」と言っていたので「負けるか!」と思い、次の時間頑張りました。

この沙弥校で学んだ事を学校や生活の中でいかしていきたいと思えます。



島根県 妙法寺 新間 信隆 (中学一年生)

僕は今回が五回目の沙弥校で、はじめの一回目は小学二年生の時に来ました。二年生のときはお経もろくに読めなかったけど、今回の沙弥校でやっとお経が読めるようになりました。

沙弥校は礼儀の指導もきびしいし、正座もとつてもいたいしきびしいけど、おいしいご飯や、楽しい銭湯、たまにあるアイスなどもあって、きびしいけどとても楽しい所です。班長さんも最初こそうざなうと思っていたけど、とても優しい人で良かったです。

来年も野球に行かず、沙弥校を優先して東京にきて楽しい沙弥校にきたいです。



愛媛県 法華寺 讀 岐 英尊 (中学一年生)

僕は今回で沙弥校は四回目でした。今回は例年に比べて厳しくなっていました。特につらかったのは正座です。五十

分間ずーつと正座のこともありました。ただ楽しいこともありました。礼儀作法の授業ではお菓子を食べたり、お茶を飲んだりしました。

食事はとてもおいしくて特においしかったのはデザート白玉だんごです。今回の沙弥校で学んだ大きな声を出す事や、背すじを伸ばすことなどを日常生活や学校生活、部活動などで生かせるようにがんばりたいです。



島根県 妙法寺 藏 本 麻湖 (小学六年生)

私は今回初めての沙弥校でした。読経練習ではとても大きな声を出しました。あと、食事のじかんは私のきらいなトマトやナスやピーマンなどで、とてもたいへんでした。でも野菜は全部たべました。楽しかったのがお茶の授業でした。友達で日本各地から来ていて、二日目ですぐに仲良くなり、いっしょにあそんだりして楽しかったです。



愛媛県 法華寺 讀 岐 謹加 (小学五年生)

私は初めての沙弥校でしたが、兄が今回で四回目なのでわたしもいっしょに行きました。女の子はわたしだけ心配でした。でもまこちゃんがいいたので安心しました。みんなとすぐに仲良くなれました。ミートスパゲッティがとてもおいしかったです。修行では一番読経練習と礼儀作法を頑張りました。来年は妹が入るので来年も沙弥校にきたいです。



青森県 蓮華寺 角 田 経一 (小学四年生)

ぼくは、今回初めての沙弥校でした。こんなに読経がつかいことがわからず、楽しみにしていたけど、意外につらかったのですが、せいざのつらさが分かり、勉強になりました。いちばん楽しかったじゆきようは、礼儀作法の勉強で、ぼくが大好きなお茶を飲み、和菓子を食べま

した。とてもおいしかったです。それに校長先生にごちそうしてもらったアイスもおいしかったです。なので、校長先生、教頭先生、それと主事先生に心から感謝します。



大分県 妙経寺 後藤 正研 (小学四年生)

今年初めて沙弥校に来ました。じもとの大分県であった「のびのび道場」とちがいで、ぜんぜんきびしかったです。お経練習がいっぱいありました。夜はしよう題行でした。目をつぶったらねむりそうでした。

それと毎日トマトを食べることがつらかったです。でもアイスやあめがたべれたりしました。こんどは大人になって先生の仕事をやりたいです。きつかったし、楽しかったです。



三重県 追分教会 高鍋 智琉 (小学三年生)

沙弥校にきたときは、ともだちがいなかったけど、なれてたたくさんのともだちができました。せんせいはいまはやさしいけど、きびしかったです。こわかったけど、がんばってできました。うれしかったです。アイスクリームをもらっておいしかったです。しゃきようもしました。はじめできたのでなにをするかさいしよはしらなかつたけど、なれてわかるようになりました。



大分県 妙経寺 後藤 諒玄 (小学二年生)

ぼくははじめて沙弥校にきました。大分からとうきようまでひこうきできました。はじめはきんちようしました。おこられてばかりでなきそうになりました。ごはんでほんとトマトがありました。さとするくんが赤ちゃんみたいにおんぶしてあそんでくれました。

聖徒の声

我がお寺に歴史あり



島根県出雲市斐川町 延福寺総代 佐藤 嘉紀

延福寺聖徒団は、平成十五年に結成されました。当初は檀家の皆さんになかなか理解されませんでした。が、若い団長の熱意でだんだん参拝者が増え、俱生神月守の着帯者も増え続けています。

以前は法事、葬儀を行うのがお寺の仕事で、慶事、ご祈念、ご祈禱は神官の仕事だと多くの檀家の人は考えておられました。

ここで、四百五十余年前、延福寺創建当時の伝承記録を基に考えて見たいと思います。当時は戦国大名加藤清正公、尼子経久公(中国五県兵庫県の十一ヶ国支配)は熱心な法華経信者でした。尼子経久公は自身



とを指して「延福寺」と命名されたと伝えられています。前述の出雲大社は神仏習合の時代でした。我が家では当時の慣わしを今に伝えていきます。正月の御日待ちは、神官ではなく住職に拜んで頂き儀式です。荒神様も二つあり、仏式と神式と二回拜んでいただきます。その他の行事も仏式中心で行い、神仏習合ではないかと思えます。そう考えますと、今熱心に功徳団長が行っておられる、心配ごとの相談やご祈禱は多くの檀家の人が今迄と変わったことをされると思われませんが、私はまさに延福寺創建当時に法華経を弘めるのにされたことの再現だと喜んでいきます。

の娘をそれぞれ千家・北島両国造との婚姻、姫君様にされ、出雲大社に朱塗りの三重塔、鐘樓を建立献上され、大永二年(一五二二)には大社外苑に法華経信者一万余名、僧侶五百余名を集め、法華大法要を挙行、当地で法華経を大いに弘められました。その後、永禄元年(一五五八)私の祖先により延福寺が創建されました。

当時、法華経を弘める為、先祖崇拜も大切ですが、それ以上にお題目を唱えその御蔭で生きていた私たちが「福」を頂き幸福になり、頂いた「福」を周囲の人に「延」ばし広げることを目指して「延福寺」と命名されたと伝えられています。前述の出雲大社は神仏習合の時代でした。我が家では当時の慣わしを今に伝えていきます。正月の御日待ちは、神官ではなく住職に拜んで頂き儀式です。荒神様も二つあり、仏式と神式と二回拜んでいただきます。その他の行事も仏式中心で行い、神仏習合ではないかと思えます。そう考えますと、今熱心に功徳団長が行っておられる、心配ごとの相談やご祈禱は多くの檀家の人が今迄と変わったことをされると思われませんが、私はまさに延福寺創建当時に法華経を弘めるのにされたことの再現だと喜んでいきます。これからも私たちは先祖崇拜も大切にしていますが、それ以上に生きていく私たちがお題目を通して福を頂き、自分だけでなく、また檀家だけでなく、周囲の人に福を延ばし広げていき、子供も孫もお寺詣りをし、楽しいお寺にしたら良いと思えます。

第三十八回 日蓮大聖人の歩まれた道

鎌倉での修学(その五)



総合研究所 教学研究部長 小泉 輝泰

「本地は不安語の経の釈迦仏、迹には不安語八幡大菩薩也(中略)遠は三千大千世界の一切衆生は釈迦如来の子也。近は日本国四十九億九万四千八百二十八人は八幡大菩薩の子也」(諫曉八幡鈔)

鎌倉に入った蓮長は、まず鶴岡八幡宮を詣でたと言われています。この時のみならず、日蓮さまは八幡大菩薩を法華経の行者の守護神として、殊の外大切に言っていました。後に同所にて「法華経を弘めんとする私を、何故守護し給わぬか」と諫曉をなされた有名

なエピソードがある程です。それは八幡大菩薩の本地(本体)は久遠のお釈迦さま(寿命(本佛)であり、私たちを守護する神としてお姿を垂れたのが、八幡さまなのだ、とお考えに基づくものでした。その守護神の前にて、自身の佛道の成就を祈り、そしてお釈迦さまの本当の教えを見極めるための学問に励むお誓いを立てられたのでしよう。

もちろん蓮長のみならず、当時の鎌倉での鶴岡八幡は、関東総鎮守と言われているほどの崇拝を集めていました。鶴岡八幡宮は、源氏名流の祖とも言える源頼義が、安倍氏との戦の折、源氏の氏神である石清水八幡宮を、由比ガ浜の海辺に分社して祀ったのが始まりとされています。頼義直系の子孫である頼朝は、鎌倉入りを果たした時に、源氏再興を祈念して現在の地に遷宮し、氏神にふさわしい姿に大造営をしました。



「貞永式目」の第一条に

平成二十五年度 「日蓮宗加行所正伝師」に工藤堯幸上人 (青森県聞法寺聖徒団団長) が就任



工藤堯幸正伝師

この度、世界三大荒行で知られる「日蓮宗加行所(大荒行堂)」（千葉県市川市法華経寺内）の本年度正伝師に、青森県聞法寺聖徒団団長・工藤堯幸上人（以下、工藤正伝師）が就任されました。

工藤正伝師は、日蓮宗霊断師会で長年に亘り青森県支部長、東北布教区長並びに制度調査委員長を歴任されています。正伝師就任は本会にとりまして大変喜ばしい事でありました。ここに工藤正伝師からお言葉を頂きましたので掲載致します。

大荒行堂とはどういう所でしようか？

「日蓮宗大荒行堂とは、毎年十一月一日より翌年二月十日までの寒巷百日の間、千葉県市川市中山にある大本山法華経寺内荒行堂に於いて、日蓮宗教師が宗祖日蓮大聖人より数々の先師上人に脈々と受け継がれてきた加持祈禱の秘法を体得するために、想像を絶



寒巷百日の荒行に臨む修行僧

する厳しい修行を行う所です。」

厳しい修行とは、どういう内容でしようか？

「朝二時半に起床し、三時から三時間おきに日に七度の水行を行います。水行とは六根を清める大切な修行です。最後の水行を終える十二時頃から約二時間程、修行僧は休む事が出来ませんが、それ以外の時間は、読経堂に籠り読経三昧に入ります。食事は、朝と夕の二回の白粥を頂き飢えをしのぎます。最初の三十五日間は、修行僧一人一人が積み重ねてきた己自身の罪を消滅し清浄なる法体を得るため、「自行(じぎょう)」を行います。それを過ぎると「化行(けたぎょう)」といって面会が出来るようになり、檀信徒の方々などに加持祈禱をしながら、自行と同じ内容の修行をこなしていきます。「よろこび」をお読みの聖徒の皆様の中にも荒行堂で面会をされた方も多く

居られるのではないでしようか。そういった厳しい修行を経て、晴れて二月十日成満の朝を迎える事になります。」

なぜそこまで厳しい修行をしなければいけないのでしようか？

「この大荒行堂を無事成満することができると修法師として活躍できます。修法師には御祈禱を用いて『南無妙法蓮華経』のお題目の神秘を人々にしっかりと伝えて一人でも多くお題目をお唱えし、祈り・悟り・行いで満ちた世の中を作り上げる役割があるのです。その為には、自らを極限まで追い込んで全神経を研ぎ澄まし、体で法華経、お題目の神秘を実感する必要があります。その為に必死になってここまで厳しい修行をしなければいけないのです。」

正伝師とは、どういう立場にありますか？

「正伝師とは、宗祖日蓮大聖人より脈々と受け継がれてきた秘法加持祈禱の血脈をしつかりと修行僧に相伝相承し、大荒行堂の運営の全てを託されている立場です。正伝師の百日間の振る舞い全てが、相伝だという認識を持ち過ごします。」

工藤正伝師様は、今までのような布教活動をされてきましたか？

「私は、昭和四十四年に霊断師になりました。その相伝講習会の折、新日蓮教学の講義、霊断法の相伝を受け、お題目は生きていく生命体であり神秘の力が存在することを確認しました。その感動を胸に昭和四十六年に身延山大荒行初行に入行し、再行、参行、再々行、五行と行数を重ねて平成十二年に副伝師を務め、その後二期八年間、全国修法師会連合会会長を務め、昨年度筆頭副伝師を務め現在に至りますが、老若男女関係なく助けを求めて来る方に霊断法と加持祈禱で向き合い、お題目の神秘に触れさせる事だけを考えて布教してまいりました。」



加持祈禱を行う工藤堯幸正伝師

たが、その中でも毎月盛運祈願会を行って俱生神月守を交換する事が本当に大切な事だと感じています。青森県の過疎地域にある聞法寺ですが、三人から始まった盛運祈願会も今では、毎月百人以上はお参りに来て下さるようになり、月守も二千体以上になり、霊断法を行った回数は少なくとも一万五千回以上になります。これが私の布教活動の結果であり、お題目の力の証明だと感じています。布教活動を通じて加持祈禱と霊断法は表裏一体であると強く感じています。」

最後に聖徒の皆様へ一言お願いします。

「しっかりとお題目をお唱えして、すがりましょう。毎月の月守を着帯し加持祈禱を受け、御守護を頂きましょう。御守護を頂いたらお題目、月守を弘めましょう。その行いが我が身を助けます。そして寺院の油となる聖徒を目指し、毎年行われる身延大会には喜んで率先して参加し、日蓮大聖人に感謝の気持ちでお会いできる聖徒になりましょう。では正伝師として精進してまいります。」

大荒行を間近に控えた大変お忙しい時期に本誌にお言葉を賜り、心から感謝申し上げます。

砥森山 法華寺

生きて救われの道場

住職 阿部 是秀
副住職 阿部 是眞

〒028-0304
岩手県遠野市宮守町下宮守31-69-1
電話 0198-67-3166
FAX 0198-67-2227

正立山 妙法寺番神聖徒団

団長 新聞 信應

毎月1日 10時
盛運祈願祭

お困り事はすぐ相談

神秘秘密の扉が開く時、必ず利益がいただける。

〒690-2404 島根県雲南市
三刀屋町三刀屋1169
TEL 0854-45-3657
FAX 0854-45-3666

安房乃國隨一
三十番神祈願道場

顕本寺聖徒団

団長 小泉 輝泰

「1人で悩まず、まずは相談」

〒295-0002
千葉県南房総市千倉町川合690-1
TEL 0470-44-1062
FAX 0470-44-1524

信用第一の専門店

◇格調高い関東風仏具◇

宗務院指定

仏壇・仏具 仏像彫刻
内陣荘厳具 設計製作

(株)中野三佛屋

東京都台東区寿2丁目7の12
電話 03(3843)6951
FAX 03(3843)6973
定休日 日曜日

北海道運輸局長
認証工場(第4-1095号)です!

お車のことなら
どんなことでも!!

車買取のユース

TEL 0166-34-3606

(有)キクチ自動車
〒078-8346
北海道旭川市東光6条6丁目190-100
TEL/FAX 0166-34-3606